



読書に親しむ環境を作る 児童図書購入資金を提供

香川県 株式会社たまや 「児童図書購入資金の贈呈」 事業



株式会社たまや
代表取締役社長
中尾元紀さん

子どもたちの人間形成に役立つ 児童図書購入資金を30年継続贈呈

読書は言葉を学び、感性を磨き、表現力や創造力を豊かにし、子どもの心の発達に大きな影響力を持つとも言われている。しかし、近年はテレビゲームやインターネット、スマートフォンの普及による子どもを取り巻く生活環境の変化、塾や習い事で忙しく、読書をする時間がない、共働き世代の増加により幼児期からの読書習慣の未形成などにより、子どもの読書離れが指摘されている。

現在、香川県内に11ホールを展開する株式会社たまやは「児童のときから読書の楽しさを知ってもらいたい」、「読書を通して知識とともに創造力を養い、将来を担う子どもた

ちの人間形成に寄与したい」、「読書を通して家族の絆を強く結びつけたい」という願いで、1987年から香川県内の主要図書館(2016年度は以下5市2町)に児童図書の購入資金を贈呈し続けている。

事業開始から10年目となる1996年には、児童の読書感想文コンクールを実施し、優秀賞10名とその保護者を国会図書館などの東京見学に招待した。また、20年を迎えた2007年にはAJOSCの第2回社会貢献大賞の部門賞である青少年育成賞を受賞している。その後も事業は継続され、昨年30年を迎えたが、これまで30年間の贈呈金額は1億3,275万円に達している。

図書館や市民から心待ちにされる 図書購入事業の今後の継続に期待

たまやのホールがある県内5市2町の図書館を対象とする資金贈呈だが、昨年度は高松、丸亀、坂出、観音寺、善通寺の5市に各50万円、三木、宇多津2町に各25万円の計300万円が贈られた。昨年11月14日には同社の専務が高松市中央図書館を訪れ、贈呈先の図書館の代表者に目録が手渡された。各図書館を代表し、高松市中央図書館の館長からは、「読書に親しむことは子どもたちの成長過程においてとても大事。大切に活用していきたい」とい

お礼が述べられた。

購入する図書の種類、内容などについては、各図書館の裁量に任せているが、購入した図書については事後報告を受けている。各自治体とも、ここ数年、経費削減が強く求められ、図書館の図書購入費もカットされているのが現状である。そうした状況のなかで、30年にわたって図書購入資金を贈呈し続けていることは、自治体にとっても力強い財政支援になっており、毎年、各自治体から感謝の声が届けられているという。

贈呈を受けた図書館を利用する市民からは、新しい本を読むことを毎年、心待ちにしている人がいたり、それを利用して、ボランティアの方々と協力して読み聞かせ会を開催している図書館もあるという。また、贈呈先のひとつ、坂出市立大橋記念図書館では、この事業を始めた当時の代表、平尾和義さんから名前を採った「平尾児童文庫」のプレートを児童図書コーナーに展示し、感謝の気持ちを表わすとともに、その周知に努めている。

読書離れのせいで、子どもたちの読解力や人とのコミュニケーション能力が落ちているという指摘もあるなか、時代や環境の変化にもかかわらず、30年にわたって続けられてきたこの事業の価値は大いに評価されるべきものである。さらなる継続を期待したい。



児童図書寄付事業活動が四国新聞に掲載 四国新聞2016年11月15日



図書館代表者への目録贈呈式



坂出市立大橋記念図書館にある「平尾児童文庫」コーナー